

からいも交流

鹿児島地球人たち

村瀬 章



はる書房

からいも交流

むら せ あきら
村瀬 章

著者略歴

1943年、岐阜県生まれ。京都大学建築学科，東京大学都市工学科大学院卒。現在，地域プランナーとして村瀬都市研究所を主宰。主著『北のパイオニアたち』（はる書房1983年）。

1984年11月6日 初版第1刷発行 定価1600円

発行所

株式会社 はる書房

〒101 東京都千代田区西神田1-3-14 根木ビル

電話(03)293-8549 振替東京1-33327

印刷 ミツワ印刷 製本 三水舎 出版社コード7029

©1984 Akira Murase, Printed in Japan

ISBN4-938133-06-7 C0036

謹

村瀬 章

からいも交流

——鹿児島地球人たち——

呈

はる書房

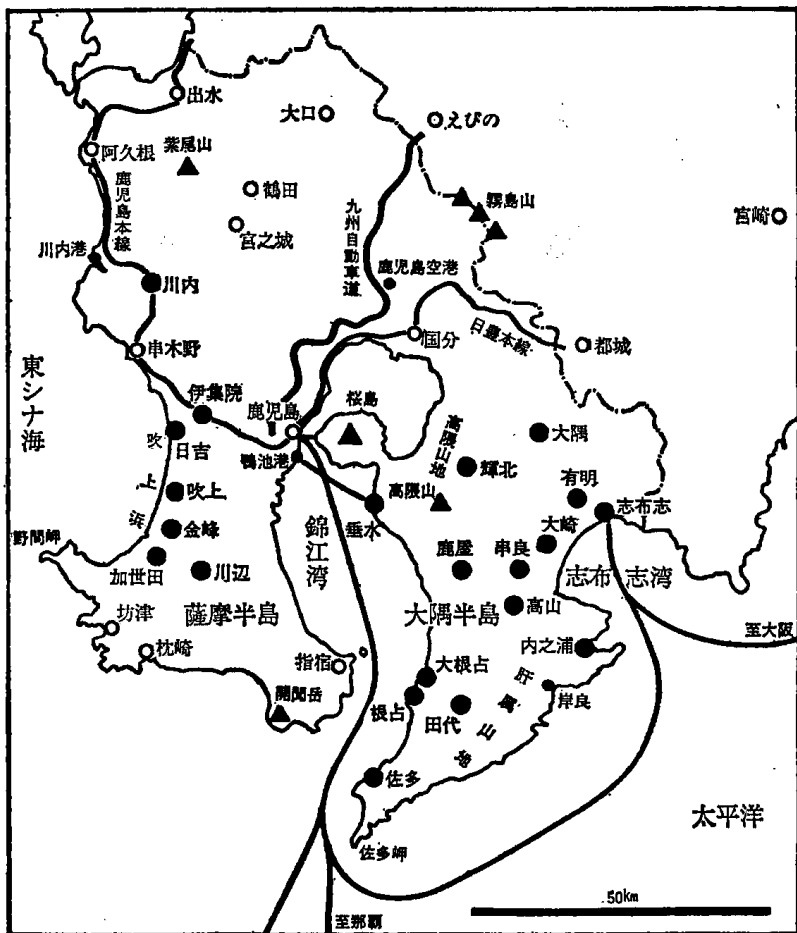
からいも交流

まえがき

地方、とくに地方農村からのリポートという点、「昼のいこい」のような、どこかで心あたたまる話題を期待されるのではないだろうか。そうでなければ、過疎とか減反とかのわびしい話であろう。しかし、それは地方に対する偏見である。少なくとも、いまの地方農村に対する認識不足である。

この本で紹介する話は、心あたたまる部分も含んではいるが、その核心のところは相当に強烈である。もっとはっきり言えば、人間と社会の変革というテーマに関して、一九八〇年代の日本でもっとも先端的な話題のひとつである、と言ってよいであろう。

そういうことが、日本列島最南端の農村地帯で起こりうると思う人も、思わない人も、この本を最後まで読んでいただきたい。著者としては、できるだけ読みやすく、わかりやすく、さらに言えば、おもしろく書いたつもりである。



目 次

まえがき.....5

ブローグ 汗と土と潮うしほのふれあい.....15

ある出会い／へからいも交流《参加留学生のその後

I 世界が町にやってくる.....31

——在日留学生、鹿児島へ

三月、さんふらわあ号に乗って.....32

手づくりのプログラム／茶わん虫の唄

新しいふるさとへの第一歩.....43

おごそかな歓迎会／「家族」との最初の夜

II 鹿児島ゆきのバッグの中身.....53

——留学生たちの個人史

漢字文化圏の留学生たち 54

外交官をめざす／故国で日本語を教える／日本社会の深層を知りたい

赤道に近いアジアの留学生たち 64

貧しい家庭から来た／国際機関で働きたい／ローマ法王が派遣した留学生

欧米文化圏の留学生たち 72

日本の修験道を研究する／見えない修道院をつくる／柔道も尺八も／日本で恋をした

日系三世の留学生たち 87

わたしはアメリカ人か日本人か／働きながら日本語を学ぶ

Ⅲ

家族がふえた

——生活・労働交流

95

茶の間と仕事場での国際交流 96

異文化との遭遇／“ほんとうの日本”を発見する

呼びさまされる戦争の記憶 110

さまざまな戦争体験／アメリカの“遺言”／

日本人戦死者碑の花

Ⅳ

コミュニティの客として

127

——地域・学校交流

ネイチャー・ネイバーズ
自然と隣人の調和 128

“近所”の復活／学校で子どもたちと

つどいの一日 144

国際シンポジウムと、からいも討論会／日
本語弁論大会と国際親善パーティ

V

「かぐや姫ごと、ごわした」……

——別れと希望と

ザ・ラッキエスト・ピープル 160

はなやかなサヨナラ・パーティ／夜の志布志
港で

壮大な宴^{うたげ}のあと 175

二つの手記／庄子ちゃんのひとり旅

VI

人間だけが頼り……

——交流を支える人びと

主宰者・加藤憲一さんの軌跡 190

ライシャワー教授のもとで／「南方圏構想」
をつくる

ボランティア団体「南方圏交流センター」 200

《からいも交流》の始動／《からいも交流》の
裏方たち

地域の担い手たち 210

農村婦人たちの力／地区代表者会議

全国の支援者たち 222

《からいも交流》に声援をおくる人びと／援
助をおしまない国際交流機関

VII

静かな革命

——《からいも交流》の思想

《からいも交流》が明らかにしたもの 236

アジアを見る目、アジアの目／地域社会にま
きおこす波紋

《からいも交流》がめざすもの 246

《からいも交流》の先端性／《からいも交流》の
展開ビジョン

エピローグ 辺境の夜明け 261

岸良集落の情景／よみがえる農民の伝統

資料 受け入れ家庭・留学生リスト 273

あとがき 283

凡例

一 本書では、日本人の名前には敬称を付け、在日留学生の名前には付けていない。このような書物では、それが自然だと考えられたからである。漢字名をもつ留学生の場合、日本の人名と似ていることから不自然な場合もあるが、表記を次項のようにすることにより、右の原則に従った。ただし、漢字名をもつ留学生の姓あるいは名だけを敬称なしで呼ぶことはせず、二度目以降に出てくるときにもフル・ネームで示した。

二 留学生氏名の日本語による表記については、原則として、留学生自身が南方圏交流センターへの申し込み用紙に記入したカタカナ表記を採用した。姓、名の前後関係についても同様である。したがって、漢字名の場合、現地読み、日本読みがまじっている。漢字名をもつ留学生については、初出のさいカタカナ表記のあとに（ ）で漢字を添えた。

三 一九七二年以降、日本では台湾に対して「中華民国」という国名を使っていないが、出身留学生がそのように名づけることも多いので、本書では、「中華民国」「台湾」を併用した。

ブ
ロ
ー
グ

汗と土と潮うしおのふれあい